

## 006 うさお

## 超偏見異人伝

前回、日出彦さんへの伝言板を書いている時に、山本寿美香さんのことを書き、ふと、超偏見異人伝なんか面白いなって思い立った。

山本さんは執筆当時から画力、ストーリーとも定評のある人で、人気も有り、これからが期待される人であった。ただ、今にして思えば、ストーリーに独善的な展開が多く、また本人がそれを奇異に思っておらず、そのような展開も十分にあると信じ込んでいるような節があった。自分に出来ることは他人も出来る。その様な思いがあったのかもしれない。

極め付きは、絶筆をする直前の短編の中で、霊視能力、神からのお告げ受ける力を本人が持っていることなどが書かれていたように思う。神からの啓示を受け作品を書いていたとも言う。彼女の父親は彼女のカリスマ性に若い時から気づいていたようで、宗教的な道場を経営し始め、人気絶頂の彼女を巫女、霊依りに転身させてしまった。



13歳の黙示録	宗田理	秋元千佳から母への手紙、内山亮から記者への手紙、僕は少年たちに言いたい。人を殺してはいけない。それは、自分も含めてすべてを滅ぼしてしまうからである。	☆☆☆ 未成年の未処罰がテーマ、理由のわからない殺人、後味悪し。
瑠璃の海	小池真理子	バス事故で夫を失った三十代半ばの萌、娘を失った作家・遊作。突然の悲劇に結びつけられた二人は、同じ孤独の淵で愛し合い、終末へと向かう。運命に弄ばれ、静かな絶望に彩られた愛の行方。究極の恋の道行きを描く。	☆☆ 最近、小池さんは後味が悪く詰まんない。
リカ	五十嵐貴久	本間隆雄は妻子を愛する平凡なサラリーマン。軽い気持ちで始めた「出会いサイト」のナンパで、「リカ」と名乗る女性と知り合う。徐々に常軌を逸していくリカの言動に脅えた本間は、携帯の番号を変え、連絡を断った。リカが異常な執念で彼を捜していることを知る。そしてリカの恐るべきストーキングが始まった。	☆ ばっかでないの！（ネイノウさん！）とってもありがちで、素直らしく詰まんない。何だ、詰まんない本ばっかりだなあ。
武士の紋章	池波正太郎	智謀の人—黒田如水。武士の紋章—滝川三九郎。首討とう大坂陣—真田幸村。若き獅子—高杉晋作。剣友—渡辺鐘。壮烈なる孤忠—松平容保。悲運の英雄—河井継之助の伝記。	☆☆☆☆ 安心して読めて、内容がしっかりしてるので、後味すっきり。
Zero	麻生幾	常に厚いベールに包まれる全国公安警察の頂点に君臨する組織「ZERO」。その存在は国家機密であり、名称を警察内部で口にするこさえ許されない。これが公安警察、驚愕の真実だって本当？。	☆☆ 逢坂剛のほうがリアリティがあるぞ。まだまだ。でも読ませるよ。
霊験お初捕物控 2天狗風	宮部みゆき	一陣の風が吹いたとき、嫁入り前の娘が次々と神隠しに一。不思議な力をもつお初は、算学の道場に通う右京之介とともに、忽然と姿を消した娘たちの行方を追うことになった。ところが闇に響く謎の声や観音様の姿を借りたもののけに翻弄され、調べは難航する。	☆☆☆☆ さすがこうまい、アラレちゃんみたいな顔だが、平岩弓枝みたいな時代劇巧者になっている。SF的味付けはいらなかったかも。
華の下にて	内田康夫	京都で雑誌記者が謎の死を遂げた。華道家元の座をめぐり、様々な思惑が複雑に絡み合う中、第二の犠牲者が。美しく桜が咲き乱れる古都で、伝統と格式のもとに封印された秘密に、浅見光彦が挑む！	☆☆ 安心して読めて、読む時間が速いけど、この内容、前にも似たプロットのものがありましたよね。

神のふたつの貌	貫井徳郎	新世紀の「罪と罰」！ 牧師の子に生まれ、神の愛を一途に求めた少年。もっとも神に近かったはずの魂は、なぜ荒野を彷徨うのか	☆☆ これも少年の心理を僕は判っているんだけどねって、上から見ている。
無限連鎖	楡周平	東京湾炎上！ テロリストの要求を呑まなければ首都が壊滅する。N. Y. 東京…世界を震撼させるテロの連鎖が。日米首脳的苦渋の決断が下った。	☆☆☆☆ 読ませるけど、パニック小説で東京湾炎上ってテロものがあり、それと酷似します。
マリン・スノー	高野裕美子	南硫黄島沖に隆起した海底火山のカルデラ。中国の潜水艦(海鳳)が沈没し、日本の潜航調査船が爆破された。調査にあたった海上自衛隊硫黄島航空基地隊と、航空自衛隊のパイロットたち。マリン・スノーの舞う海底カルデラをめぐる、一触即発の情勢となった。	☆☆☆☆☆ 女性としては右翼だ。右翼だから面白い。戦争なんて嫌いで思想はこの中にはない。本当は女性のほうが闘争心が旺盛なのでは？
情事	志水辰夫	妻の反応が熟れてきた。謎めいた若い女と逢瀬を重ねるにつれ夫婦の交わりに痴情が戻り欲望の底が見えなくなった…氏としては初めての情痴小説。	☆☆ 志水さんしっかりしてと言いたい。こんな小説、勘弁です。
異常魔	南英男	ボディ・ガード反町は、老ヤクザから孫娘護衛の依頼を受けた。息子の負債が原因で、嫁の美和が拉致され行方不明なのだ。英米特殊機関使用の武器を操る敵の正体は。法で裁けぬ悪を狩る。	☆ プロットは出張で買うポイ捨て小説にありがちな奴で、読む価値なし。
邪光	牧村泉	少女が鈴を鳴らす時、血なまぐさい殺人事件が起こる。ご近所が同じ建物の中にいる閉鎖マンションホラー。	☆☆ オウム事件のようだがオカルト志向のものです。もう少し面白く出来たのでは。
千里眼／運命の暗示	松岡圭祐	捕らわれた岬美由紀を救い出すため、嵯峨と蒲生は猿島に向かう。中国15億人を一斉に操り日本侵攻に向かわせるメフィストの集団暗示のからくりは？。	☆ てへ、こんなにハチャメチャになっちゃうとね…。
日暮らし	宮部みゆき	不思議な美女・葵が殺された。殺したのは、佐吉？ 葵の死をきっかけに男と女、父・母と子の業。ぼんくら同心・平四郎、超美形少年・弓之助が真実に迫る…。	☆☆☆☆ ぼんくらは読んでる筈だが忘れてる。でも面白い。

で、山本先生は霊依りとして、神の御子であることを開眼して行くのであるが、当時の人気の漫画家としては異例のことだと言わざるを得ない。(今でもね！)その後、先生の姿を見た人はいない。死んだともいう。

作家や漫画家の人達は、締切近くになると数日間の徹夜を強いられる事が多く、緊張、弛緩の繰り返すことになるが、そのためナルコティック(幻覚剤です)なアドレナリンを異常に放出出来る体質になるのかもしれない。

「ガラスの仮面」の美内すずえは、UFOに攫われたことがあるらしい。どこかの雑誌に書かれていたのを読んだ記憶がある。本気なのかジョークなのかは分からない。SFが全盛の時にはそう言動をする人間が多かったのは事実である。夢か現実かが分からない人達は、いつしか本当のことになってしまうのであろう。

煤図かずおは、まず言動が変である。ストーリーの展開が異常なところから始まる。変に微妙なところに拘る。(例えば紅茶皿の持ち方など、確かに正式な英国マナーをなぞっているのだがそれが作品に不気味さを醸し出している。一般生活の中でマナー通りの生活をするというところに異常さを感じるのは私だけであらうか。あっ、私だけ！)

それを本人が不思議だと思っていないことが不思議だ。現在は腱鞘炎のため、筆を絶っているそうであるが、人との付き合いが下手そうな割に、ロックバンドを60歳の時に立ち上げている。

こんな風に、風聞、噂で立派な異人像を作り上げるって企画はどうでしょう。TICA さん。わたしゃこんなことを編集者から、本人から、友人から聞いているんですぜって、品の無さが紛々とする企画ですが。手持ちとしては、水木しげる、一条ゆかり、…あれっ！漫画家ばかりだなあ。